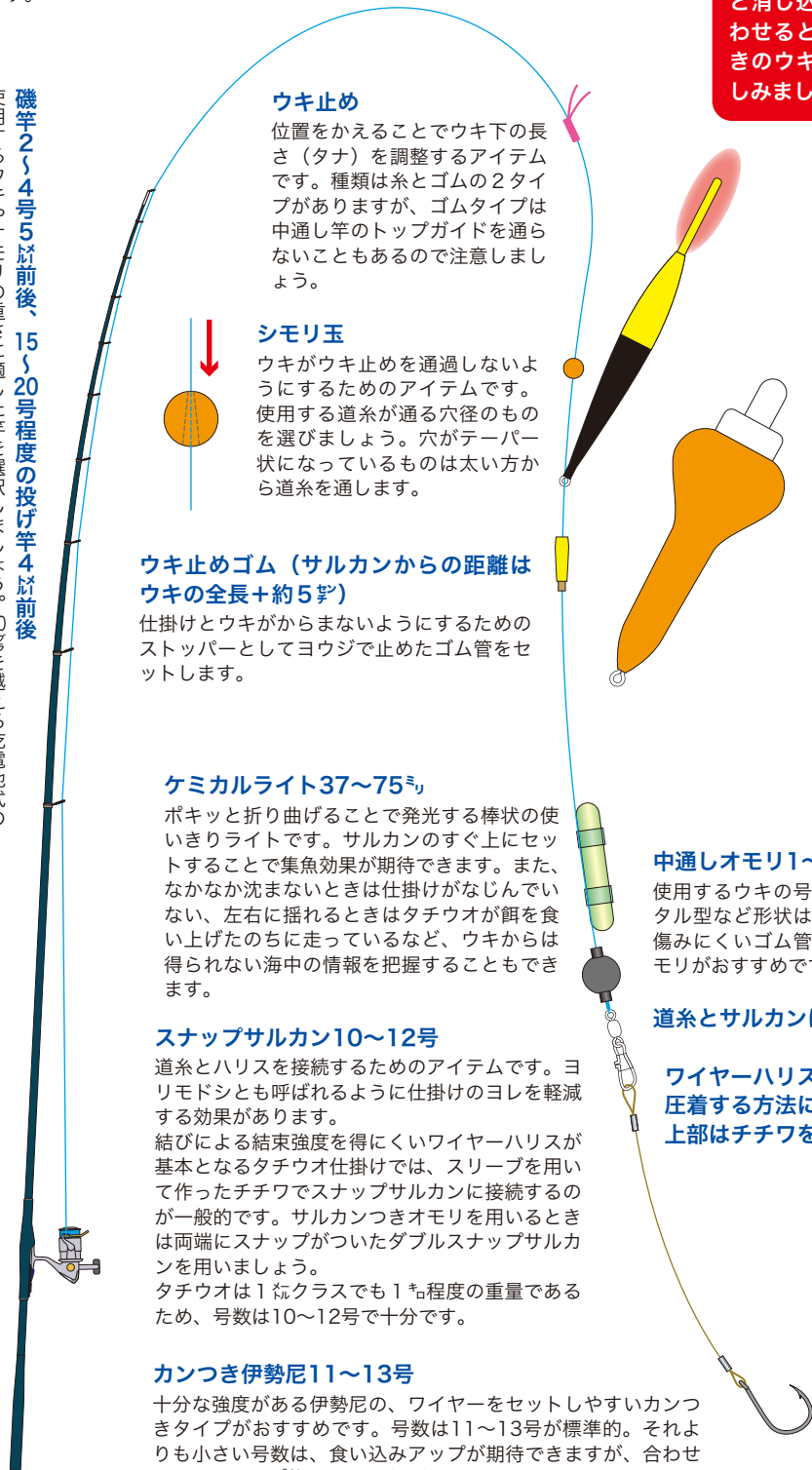


道糸：ナイロン3～4号

トラブルの少ないナイロンを用いるのが基本です。タチウオは青物のように強く俊敏な引きを見せる魚ではありませんが、道糸に負荷が集中する抜き上げでの取り込みを考慮すると3～4号を選択するのが無難です。ただ、太い道糸は風や潮流の影響を受けやすく、流しているうちに仕掛けが手前に寄りやすいなどの難点があります。やり取りや抜き上げに慣れているなら、軽い仕掛けを使用する前提で2～2.5号を使うことも考慮したいものです。

磯竿2～4号5尺前後、15～20号程度の投げ竿4尺前後
使用するウキやオモリの重さに適した竿を選択しましょう。50号を超える乾電池式の大型電気ウキを使う場合は4号以上の遠投磯竿や投げ竿が求められます。リチウム電池式の3号以下のウキを用いる場合は磯竿2号でも釣りは可能です。ただ、抜き上げによる取り込みを考えた場合、指4本クラスの良い型が期待できる状況なら遠投磯竿3号クラスを使うのが無難です。

スピニングリール3000～3500番
使用する3～4号の道糸を1.50号ほど巻けるサイズを選びましょう。ドラッグの性能を求めるほどの引きを見せる魚ではないので高価なモデルでなくてもOKです。



ウキ止め

位置をかえることでウキ下の長さ(タナ)を調整するアイテムです。種類は糸とゴムの2タイプがありますが、ゴムタイプは中通し竿のトップガイドを通らないこともあるので注意しましょう。

シモリ玉

ウキがウキ止めを通過しないようにするためのアイテムです。使用する道糸が通る穴径のものを選びましょう。穴がテーパ状になっているものは太い方から道糸を通します。

ウキ止めゴム(サルカンからの距離はウキの全長+約5号)

仕掛けとウキがからまないようにするためのストッパーとしてヨウジで止めたゴム管をセットします。

ケミカルライト37～75番

ポキッと折り曲げることで発光する棒状の使いきりライトです。サルカンのすぐ上にセットすることで集魚効果が期待できます。また、なかなか沈まないときは仕掛けがなじんでいない、左右に揺れるときはタチウオが餌を食い上げたのちに走っているなど、ウキからは得られない海中の情報を把握することもできます。

スナップサルカン10～12号

道糸とハリスを接続するためのアイテムです。ヨリモドシとも呼ばれるように仕掛けのヨレを軽減する効果があります。

結びによる結束強度を得にくいワイヤーハリスが基本となるタチウオ仕掛けでは、スリーブを用いて作ったチチワでスナップサルカンに接続するのが一般的です。サルカンつきオモリを用いるときは両端にスナップがついたダブルスナップサルカンを用いましょう。タチウオは1号クラスでも1号程度の重量であるため、号数は10～12号で十分です。

カンつき伊勢尼11～13号

十分な強度がある伊勢尼の、ワイヤーをセットしやすいカンつきタイプがおすすです。号数は11～13号が標準的。それよりも小さい号数は、食い込みアップが期待できますが、合わせたときにスッポ抜けるリスクもあります。

①ウキ釣りスタイル

回遊のタイミングにバラつきがあるときは、仕掛けを潮に乗せて流しながらじっくりと探れるウキ釣りが有効です。電気ウキがスッと消し込まれたときに覚えるワクワク感、合わせるときのドキドキ感、うまく掛かったときのウキウキ感など、多彩な釣趣を存分に楽しみましょう!!

流線型の自立タイプの電気ウキ1～3号(リチウム電池式)、大型電気ウキ(乾電池式など)

2号程度の磯竿で投げられる1～3号程度の比較的軽いオモリが乗る流線型のウキを用いるのが一般的です。軽いほど違和感の低減がはかれるため食い込みがよい、重いほど遠投しやすいうえに深いタナをスムーズに探れる、という特徴があります。釣り場や魚の動きなどの事情に応じてセレクトしましょう。

そして、種類としてウキ単体では立たない非自立タイプ(ウエートなし)と、ウキ単体で直立する自立タイプ(ウエートあり)があります。非自立タイプには仕掛けのなじみ具合がわかりやすいという利点がありますが、遠投も視野に入れるタチウオ狙いにおいては飛距離を重視して飛行姿勢の安定がはかれる自立タイプを選ぶのが得策です。

遠投が有利な釣り場では、自重があるぶん飛距離を稼げるソフトクリーム型のウキ(単三電池を使用するタイプ)を用いるのもいいでしょう。高輝度で視認性がよいため沖めを探る釣りに最適です。

中通しオモリ1～3号

使用するウキの号数に合わせた号数をセットします。丸型やタル型など形状は問いませんが、道糸とサルカンの結束部が傷みにくいゴム管つきの中通しオモリか、サルカンつきのオモリがおすすです。

道糸とサルカンはクリンチノットで結束

ワイヤーハリスをスリーブで
圧着する方法にてハリをセットする。
上部はチチワを作ってスリーブで圧着

ワイヤーハリス47～49番20号前後

タチウオの鋭い歯に当たっても切れないように強度のあるワイヤーハリスを使用します。細くてしなやかなほど食い込みがよいとされていますが、タチウオにハリを飲み込まれたときにワイヤーがパーマ状にヨレて強度が落ちるというデメリットがあります。強度と食い込みのよさのバランスを考慮すると47～49番を使用するのがベターです。

長さは餌を丸飲みにもされても歯が道糸に当たらないように20号程度とします。